

一般社団法人日本鉱物科学会
2019年度第2回定例理事会 議事録

- 【1】招集通知年月日：2020年5月15日(金)
【2】開催年月日及び時刻：2020年5月23日(土)
15時45分～19時30分
【3】開催場所：東北大学理学部理学合同A棟4階402号室
一般社団法人日本鉱物科学会事務局
980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
(ZOOM Meetingによるオンライン会議)

【4】理事総数および定足数：総数 22名 定足数 12名

【5】出席理事数：22名 WEB会議参加

榎並正樹, 宮脇隆郎, 安東淳一, 阿部なつ江, 井上 徹,
大藤弘明, 大和田正明, 鍵 裕之, 川本竜彦, 河上哲生,
黒澤正紀, 辻森 樹, 土屋範芳, 富岡尚敬, 中村美千彦,
永井隆哉, 永嶋真理子, 長瀬敏郎, 伴 雅雄, 森下知見,
畠本尚義, 吉朝 朗

【6】欠席理事数：0名

【7】出席監事：平島崇男

【8】オブザーバー：(幹事, 各委員長, 報告者)

出席：栗林貴弘会計幹事
磯部博志行事幹事, 三鉱連絡委員
興野 純Elements幹事
佐藤 努務幹事(会員増対策担当),
会員区分等検討WG委員長
門馬綱一JpGU2020年プログラム正委員,
新鉱物・命名・分類委員会委員長
西原 遊JpGU2020年プログラム副委員
大内智博選挙管理委員会委員
坂野靖行博物館委員会委員長：
大谷栄治IMA小委員会委員長
小暮敏博渡邊萬次郎賞選考委員会委員長
新名良介研究発表優秀賞選考委員会委員長
欠席：林信太郎教育普及委員会委員長
松原 聰櫻井賞選考委員会委員長

【9】議事概要

榎並会長により, WEB会議システムを用いて理事会を開催するにあたり, WEB会議システムの通信状況, 出席者全員の音声と映像が即時に伝わり, 適時的確な意見表明が互いにできる状況に問題がないことが確認された。

続いて, 開始時刻(定刻)における出席理事数が確認された。理事22名全員の出席があり定款30条により理事会が成立したことが確認され, 2019年度第2回定例理事会を開始した。

榎並会長が議長に選出され, 続いて書記の選出が行われ, 榎並会長の指名により事務が書記を担当することになった。

1. 報告事項

1. 会長・副会長の職務執行報告 (榎並会長, 宮脇副会長)

各業務は各担当者に一任していることから, 会長, 副会長から個別の報告は特にないので, 以下の順に沿って, 各担当者から報告を行った。

2. 会員報告 (阿部会員幹事・理事)

阿部会員幹事により以下の通り, 2019年度第1回定例理事会(2019年9月21日)以降の会員動静について報告がなされた。

物故会員6名(名誉会員3名, 永年会員1名, シニア会員1名), 退会者4名(内訳: 永年会員1名, 一般会員2名, 学生会員1名)であった。また, 2019年9月21日第1回理事会において, 8名の2年会費未納者への納入依頼を関係理事にお願いしたが, 4名については連絡が取れなく, 会員資格停止が決定した。また2名の住所不明学生会員については引き続き指導教員を通して調査中である。

2020年5月23日現在の会員数総数は868名(内訳一般会員568名, シニア会員173名, 学生会員83名, 永年会員33名, 名誉会員11名)で2019年9月21日の定時総会後より12名減少となった。

3. 広報報告 (大藤広報幹事・理事)

大藤広報幹事により, 広報活動について以下の通り報告がなされた。

(1) 広報委員会委員の主な役割分担: HPの更新作業の対応: 梶谷浩委員(を中心に委員全員で対応), JpGUブース展示: 斎藤哲委員(および学会参加の委員で対応), Twitterの管理運営: 石橋秀巳委員, Facebookの管理運営: 浜田麻希委員, その他諸々の対応: 大藤委員長。

(2) 会員へのML送信を実施した(2020年は現在までに5件)。内容は, 学会事務連絡, 公募案内, 関連学会案内など。

(3) Face bookとtwitterリンクと学会HPのシンクロ, 随時更新強化。

「一家に1枚: 鉱物・地球と宇宙の宝物」ポスター(第2版)の紹介ビデオ(宮脇委員作成)のHP, Face book, twitterへの掲載(2020/4)

(4) 2020年JpGU大会の日本鉱物科学会ブース展示 新型コロナウイルスの影響で大会がオンライン開催となった為, 例年のオンサイトブース展示はキャンセル(出展料は返金済み)。代替としてJpGU事務局ではバーチャル(オンライン)展示を検討しており, そのサービス内容などに関する意見交換会 (ZOOM)会議が5/8に行われ, 大藤委員長が対応。その後, 当学会としてバーチャル展示へ出店するかどうかを現在広報委員会において検討中。なお, 出展料はオンサイトの場合と同様に3万円(税別)の見込み。来年度以後JpGUが通常開催となった場合も, バーチャル展示は今後のブース展示の一形式としてスタンダード化される可能性が高い。

(5) 奥山会員を中心に改訂いただいた「一家に1枚: 鉱物・地球と宇宙の宝物」の第2版が発行され, A1判およびA2判が事務局に到着。今後の広報活動に活用予定。

(6) 現代の広報展開において重要度が高くなってきている学会HPの掲載情報や表示の仕方の見直し, 改善案について, 広報委員会の中で議論を行い, 改善案をまとめた。近く, 事務局とも相談の上, 対応を検討したい。

4. 渉外報告 (森下渉外幹事・理事)

森下渉外幹事により, 渉外活動について以下の通り報告がなされた。

(1) JpGU学会展示での書籍展示の報告: 今年のJpGUはWEB開催で, 通常の展示は行わないため, 今年は会員著者書籍の寄贈募集はしていない。

(2)「宝石切手」の発行に向けて: 2019年6月6日に日本宝石協会事務局から当学会宛の連名依頼文書を受領。その際, 渉外幹事森下が担当することになった。2019年10月31日に日本宝石協会事務局, 大石さんから進捗状況報告メールあり。2019年11月06日, 提出書類の当学会紹介文書を修正して日本宝石協会事務局へ提出。その後の情報は無いとのこと。

5. 和文誌編集報告 (長瀬和文誌幹事・理事)

長瀬和文誌幹事により, GKKの編集状況について以下の通り報告がなされた。

1. 編集状況報告: 1) 2020年5月21日現在まで, 岩石鉱物科学48巻3号, 4号, 49巻1号の合計3号が発行された。掲載件数頁数は原著論文1件310p, 資料・解説7件61p, 新刊紹介4件2p, ニュース(他学会案内, 公募等) 0.5p, 投稿規定3p, 学会記事(理事会・総会議事録) 44.5p, 追悼文2p, 総目次2p, 広告1件1p, 白頁2p, 3号分合計頁128p, 1号平均頁42.6p, 2) 発行状況: 49巻1号(2020年5月15日発行) 受賞紹介3編: 49巻2号(発行未定) 受賞紹介1編予定, 3) 現在査読中論文が1編なので, 皆様に投稿をお願いしたい。
2. 将来企画委員会からの勧告内容について今後検討予定(勧告内容): ・和文誌GKKは1頁あたり2,500円(白黒)を英文誌JMPSと同等(4,000円)に是正・刊行ペースの見直し(年4回から年2回へ, あるいは電子版の随時配信と冊子体の廃止など)で経費抑制を検討すべき。上記勧告内容については, 6月にGKK編集委員会でもメール審議を実施する予定。

6. 英文誌編集報告(吉朝英文誌幹事・理事)

吉朝英文誌幹事により, JMPSの編集状況について, 2020年5月23日(土)11:00~11:45に開催された2020年第1回JMPS編集委員会(WEB会議)の内容に基づいて報告がなされた。

1. 報告事項 1) JMPS状況報告: 2019年9月21日報告以降2020年5月21日現在まで114巻4号(8月)~115巻2号(4月)計5号が発行された。掲載件数頁数は後記の通り: Review 5件60p, Articles 22件268p, Letters 7件39p, Editorial 2p, 投稿規程 4p, Index 4p, Contents 4p, 白頁1p, 5号分合計頁382p, 1号平均頁76.4p。2)今後の発行予定: 115巻3号(6月号)(早期公開2編, 印刷中5編, 6月末WEB公開予定), 115巻4号(8月号)(受理論文6編印刷準備中), 115巻5号(10月号)(受理論文1編) 3)現在の編集状況: 受理論文7編(8, 10月号予定), 査読中10編, 返却中3編。4) 2018 JMPS Impact Factorは1.472となり2017の1.030よりアップした。以上から, JMPSへの投稿はなかなか増えないが, 遅滞なく発行されていることが報告された。5) 特集号発行報告: 井上委員と広島大学のDAS会員の協力により115巻2号(4月号)として特集号The special issue on 'Indian continent'(掲載論文11論文, 総頁160頁, 電子ジャーナルPDF本文著者希望全図カラー印刷, 冊子印刷11頁分がカラー印刷)が発行されたことが報告された。
2. 審議事項 1) 2019年度JMPS学生論文賞審査結果は以下の通りで, 後記の本理事会で審議される。第9回対象論文: Metamorphic pressure-temperature conditions of the Lützow-Holm Complex of East Antarctica deduced from Zr-in-rutile geothermometer and Al_2SiO_5 minerals enclosed in garnet. 114-6, 267-279, 2019. 学生会員筆頭著者: 鈴木康太。第10回対象論文: Formation of triple-layer coronas between corundum and hornblende from the Lützow-Holm Complex at Akarui Point, East Antarctica. 113-2, 68-81, 2018. 学生会員筆頭著者: 森 祐紀。2) JMPS学生論文賞対象範囲の件について, 今回の審査対象論文を学生会員著者全員として11編となったことを受けて, 審査対象論文を減らさないため今後も「学生会員著者全員」を審査対象論文とすることが承認された。3) DAS Kaushik会員をJMPS編集委員会委員として委員長から指名があり, 承認された。4) 2020年JpGU Letter募集と2020年年会Letterの募集について, JpGUオンライン開催と当学会年会もオンラインになった場合どうするかについて検討した結果, 今後の開催方法によるが, 継続して募集することとなった。5) 将来企画委員会会計問題WGからの答申を受けてJMPSで検討する以下の案件, (1) カラー印刷のあり方(電子版のみのカラー化対応, カラー冊子体希望者への対応)とカラーチャージについてさらに詳細を再検討。(2) 学会誌経費の財源について, 会員負担(年会費・購読費)と著者負担(ページチャージ・カラーチャージ)の比率を英文誌, 和文誌それぞれで精査するべきであるについて, 今後更に検討することとなった。6) ページチャージ割引率30%を15-20%へ減額する継続

審議と7)冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする継続審議についても同様に更に詳細を検討することとなった。

7. 庶務報告(河上庶務幹事・理事)

河上庶務幹事により, 2019年度第1回定例理事会(2019年9月21日)以降の庶務業務について以下の様に報告がなされた。

- 1) 2018年度定例総会開催, 総会招集通知資料発送, 総会議事録作成確認。2) 2019年度第1回理事会(九大), 第2回理事会(WEB会議)開催関連, 会場準備, WEB会議準備。3) 各委員会委員候補者の理事選挙投票対応, 各賞公募会員アナウンス対応。4) 後援, 共催, 協賛対応。5) 会員への連絡, 学会誌発送。6) 令和2年度日本学術振興会賞, 育志賞受賞候補者募集のアナウンス。7) 新型コロナウイルス感染拡大緊急事態宣言による事務員在宅勤務の対応。

8. 行事・年会報告(磯部行事幹事)

磯部行事幹事により, コロナ禍状況での今年度の行事について以下の通り報告がなされた。

1. 日本地球惑星科学連合2020年大会JpGU-AGU Joint Meeting 2020がコロナ禍の影響で2019年7月12日(日)~16日(木)に延期され, 開催方法はオンライン大会となった。
2. 日本鉱物科学会2020年年会・総会は現在のところ, 以下の予定で開催することが会員に周知されていること, 今後の状況次第で, 今後開催方法について検討していくことが報告された。日程: 2019年9月16日(水)~18日(金), 会場: 東北大学青葉山新キャンパス 環境科学研究科本館, 青葉山 commons, 〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1 (1) 日本鉱物科学会一般普及講演「日本の国石・ひすい」9月13日(日)13:00~スリーエム仙台市科学館(仙台市青葉区台原森林公園4番1号) (2) 参加登録費について昨年から利用したアトラス社の講演申込から講演要旨公開まで一貫したシステムConfitの料金が昨年から3年契約割引で年67万円(九州大学での費用は60万円)と7万円の値上げとなり, 行事委員会とLOC委員長で協議した結果, 差額は参加者に負担していたこととなり以下の様に値上げをすることにした。事前料金: 一般会員7,500円(500円値上げ), 学生会員3,500円(値上げ無し) 非会員(一般)12,000円(1,000円値上げ) 非会員(学生)6,000円(500円値上げ)。当日料金: 一般会員8,500円(500円値上げ), 学生会員4,000円(値上げ無し), 非会員(一般)13,000円(1,000円値上げ), 非会員(学生) 6,500円(500円値上げ)。(3) 講演申込み期間: 2020年6月23日(火)10:00~7月14日(火)20:00まで (WEBサイト利用) なお, JpGU-AGU Joint Meeting 2020の開催延期に伴い, 2019年7月12日(日)~14日(木)まで重複することになる。
3. コロナ感染拡大の影響により2020年年会開催方法について, その後行事委員会, LOC, コンピーナー等と協議をした結果について本理事会に議案として提案しているので後記参照。

9. Elements報告(興野Elements幹事)

興野Elements委員長により, Elements 2020年掲載原稿について以下の通り報告がなされた。既に6月号までの下記の原稿をElementsに入稿し現在8月号のトピックス記事を依頼中。10月, 12月号は学会賞の紹介記事を掲載予定。

- ・2020 No.1, 2月号: From President (覆並会長), Invitation to the JpGU Meeting 2019, JMPS Contents 114-6, Dec. 2019.
- ・2020 No.2, 4月号: Joint Graduate Program between Tohoku and Bayreuth University(東北大・中村美千彦会員), JMPS Contents 115-1, Feb. 2020.
- ・2020 No.3, 6月号: Hunting mineral-centered life from deep rocky biosphere(東大・鈴木庸平会員), JMPS Contents 115-2, Apr. 2020.
- ・2020No.4, 8月号(原稿締切 2020/5/29):トピックス「地球科学におけるナノ秒時間分解X線回折法の応用」(KEK・高木壮大会員), JMPS Contents 115-3, June 2020.
- ・2020No.5, 10月号(原稿締切 2020/7/14): 学会賞, 渡邊萬次郎賞,

櫻井賞の紹介, JMPS Contents 115-4, Aug. 2020.
 ・2020No.6,12月号(原稿締切 2020/7/14): 研究奨励賞, 応用鉱物科学賞, 論文賞の紹介, JMPS Contents 115-5, Oct. 2020.

10. 2019年度会計中間報告(栗林会計幹事)

栗林会計幹事により,日本鉱物科学会2019年度会計収支中間報告(2019年8月1日~2020年5月21日)について,収支表が提示され詳細な説明がなされた。

会費請求の通知をしているにもかかわらず,学会費の納入が遅れているのが例年通りのものであるが,次年度に今年度会費を支払う会員がいることもあり,7月末までできるだけ回収したい。また,次の報告事項でお知らせするように,2019年9月の九州大学開催年会の剰余金が大きかったことから,ほぼ例年通りの収支に推移する見込みであるとの報告がなされた。

11. 2019年年会会計決算報告(栗林会計幹事)

栗林会計幹事により,2019年年会(九州大学)会計決算について決算表が提示され説明がなされた。九州大学LOCのご尽力によりたくさんの方々にご参加いただき,助成金はなかったが予想以上の黒字(628,865円)となったことが報告された。なお,法人化後は年会会計決算も7月の決算に合算され8月に監査を受け,総会の承認を受けることになるので,今回は報告のみとする。

12. 将来企画委員会報告(宮脇委員長・理事)

宮脇将来企画委員長により,2020年5月23日13:00-13:50に開催された第24回将来企画委員会における以下の継続審議事項について審議した件について報告がなされた。

- (1) 会員制度の見直し(継続審議): 学生会員(包括料金, 一般会員への移行時の割引制度の導入など), シニア会員(永年会員制度の整備), マニア会員
- (2) 会費に代わる財源の模索(継続審議): クラウドファンディングについても可能性を模索。
- (3) 事業仕分(継続審議): 現状支出の見直し, 削減可能性の模索に加え, 今後の事務局の体制, 運営, サービス内容についても検討を開始すべき。

13. 特務幹事(細則等検討担当)報告(大和田特務幹事・理事)

大和田細則等検討担当により,現在のところ,細則等検討委員会に諮問された細則等の検討事項はないことが報告された。

14. 特務幹事(会員増対策担当), 会員区分等検討WG報告

佐藤努(会員増対策担当), 会員区分等検討WG委員長

会員区分等検討WG委員長でもある佐藤特務幹事(会員増対策担当)により以下の活動報告がなされた。

- (1) 委員交代の件: 2019年9月の第1回理事会で, 会員幹事が阿部なつ江理事に交代したことで, 阿部会員幹事に会員区分等検討WG委員会委員に役職指定で参加を依頼。
- (2) 昨年度実施した本WGの提案として会員へのアンケート結果の対応: そのアンケートで, 会員増あるいは会員数維持のための方策を考えて事業を進めることに, 約96%の会員が賛成という結果が得られた。また, そのための一つの方策として, 「鉱物を利用している産業界の方々にも積極的に入会を勧めることが重要である」と考えることにも, 約91%の会員が賛成と表明した。しかし, 産業界の方々には学会に入会していただくのは容易ではなく, 何の方策もなければ学生時代に年会に参加していた方でさえ難しいと考えられる。ただし, 人材確保が困難な昨今では, 優秀な人材発掘のために学会に参加させる会社も他学会では見受けられるので, 日本鉱物科学会の年会は, 学生の就職活動期間ではないが, 優秀な人材発掘や学生と産業界をつなげる

ことができれば, 年会に参加する学生と産業界双方にとってメリットがあるものとする。もし, 学生が年会での発表以外に参加のメリットを感じてくれば, 数ある学会の中から鉱物科学会を選んでくれる確率が上昇する可能性もある。

そこで, 以下のような事業を年会で実施できるかどうかを, 行事委員および理事会に提案したくWGで検討した。

事業内容: 下記の条件で, 鉱物利用している産業界の会社あるいは団体に, 学会での展示ブースへの出展を積極的に依頼するとともに, 年会において「業界セミナー」を実施する。

条件: 本展示ブース出展は初日だけで, 期間中を通して出展する既存の出展ブース料の半額とする。今までの展示ブースだけの出展とは別する(仮に既存の展示ブースを「展示ブースA」とし, 新しく設定する本ブースを「展示ブースB」とする)。学会初日の一般講演終了後に, 学生さんが参加できる軽食を伴う懇親会と「業界セミナー」を実施する。展示ブースBを出展してくれた会社および団体は, この会への参加の権利を有する(業界セミナーの講師も務めてもらう)。この会の経費は展示ブースBのブース代で賄う。この会の仕切りは, 本WG委員が担当する。展示ブースBを出展してくれた会社および団体の方々は, 会員であれば登録料の支払い無しに, 年会期間中の講演を聴講できる。以上を当理事会の議案として提案をするが, 今後オンライン開催になれば実施は難しくなるので, その場合は提案を取り下げる。

ブース名	開催期間中	展示ブースA	展示ブースB
期間			初日のみ
費用	3万円		1.5万円
イベント			学生が参加できる軽食を伴う懇親会, 業界セミナーの実施, 参加権利あり, 業界セミナーの講師をする権利あり。
ブース料の先行	LOC		初日に開催される業界セミナーの経費
参加登録料	開催期間中, 会場担当者数分の参加登録費無料		会員であれば登録料無しに, 年会期間中の講演を聴講できる
パナー広告	年会開催から1年前, 当学会HPトップと年会HPへの無料パナー広告付き。		無し

15. 地惑連合報告(阿部JpGU連絡担当委員・理事)

阿部JpGU地惑連合連絡担当委員により2ヶ月に1度のJpGU理事会(直近は2020年4月10日)についての報告がなされた。

- (1) 主な議題は, 2020大会について。その形式などを議論。その他, 2020大会におけるJpGU-AGU-EGU共催のユニオンセッションにおける共同声明「日本地球惑星科学連合会員行動規範」の最終案について審議した。また, 「オンライン開催」への特定寄付募集について(2020大会に限らず, 今後の大会に向けたシステム構築にあてる予定)オンライン開催として充実したシステムの提供に努力するので, 各学協会は, できる限りセッションの維持, 発表数確保に協力して欲しい旨の依頼があった。
- (2) JpGU-AGU Joint Meeting 2020大会について: 2020年大会は, 新型コロナウイルス感染拡大リスクに鑑み, 会期を7月12日~16日に延期し「オンラインネット」方式により開催する。全ての発表をiPoster(AGU のeLightning同等)で行い, 当初プログラムと同様に, 各セッション(要望したセッション)はオンライン会議システムによるリアルタイム討論のためのDiscussion Forum Session (DFS)を実施する。パブリックセッション・ユニオンセッションはライブ配信を積極的に実施する。・2020年5月26日(火)17:00まで, 追加投稿も受け付中。・参加登録は全日程一律の料金で, 従来の現地大会の「1日券」(早期参加登録料金)相当の金額を設定。
- (3) その他: 鉱物科学会年会の若手コンピーナーより, 2020年の秋季大会について臨時JpGU(秋季大会)として, JpGu-AGU 2020大会のシステムを利用して, 国内他学会と共同でのオンライン開催が可能かどうか問い合わせあり(5月13日メール受信)。

16. IMA小委員会・学会会議報告

(大谷IMA小委員会委員長, 学会会議連携会員)

大谷IMA小委員会委員長, 学会会議連携会員により以下の通り2020年5月23日(土)14:05-14:55に開催されたIMA小委員会の報告がなされた。

- 1. IMA Council, 各コミッションとWGの現状(WGの再構築の

現状)と今後の対応について。日本からも理事を出した方がよい。Councilのメンバーとして大藤教授(GRC)を推薦しSecretaryのHans-Peter Scherfに連絡。CGMのメンバーの交代:宮田博士から阿以アヒマデ博士への変更をIMA構成学会の代表者榎並会長と連名でCGMの委員長に連絡。IMAの総会:Lyon France, 2022。CMMN(命名・記載コミッション)新体制については宮脇委員長から報告。CPM:コミッションについては井上副委員長から報告。CMは坂野靖行委員長により報告。IMA2018メルボルン大会期間中に開催されたIMA博物館委員会(IMA-CM)に長瀬委員が参加した。投票により新委員長(Dr. Mike Rumsey)選出及びM&M9開催国(ブルガリア)の承認が行われた。2019年4月にIMA-CMより連絡があり今後はメールを用いた情報共有を進める。・IMA-CMのwebsite (www.ima-cm.com)が刷新された。・M&M9 conferenceはBulgaria, Sofiaで2020.7.5-7.7に開催される。・年4回(4月,7月,10月, 1月)IMA-CM mail updateがCM memberに送信される。・多くのCM memberが遠方への会議に出席困難であるので今後はregular mail contact and discussionにより重点を置く。・Type catalogue (CTMS)が2018年11月にre-organizeされCM websiteに掲載された。今後はCNMNCの協力によりtype specimen情報がCM側に提供され、type catalogueのupdateがregular basisで可能になる。・今後のM&Mの開催方針案“The board have been discussing that in all future years where M&M conference is in Europe for it to be held the week prior to the EMC conference, thereby allowing maximum opportunity to have good numbers at the M&M conferences and quorum at just a single IMA-CM meeting.”が述べられCMの多くのメンバーが参加できるようにするため今後のM&Mはヨーロッパで開催(the EMC conferenceの前週で開催)される案が議論されていることが紹介された。

2. 24期学会活動の活動・大型研究課題の審査。3. 地球科学における大型研究の現状とヒヤリング・大型研究の大規模改訂(2020年度)のヒヤリング・参加者審査が5/27, 9:00-17:00に行われる。・鉱物科学に関連する大型研究課題の現状の紹介(入船教授・鍵教授)。4. 鉱物科学における人材育成:西山委員(教科書):新しい地球惑星科学(西山・吉田共編著)培風館2019年3月。5. その他:地球科学における不正問題:研究倫理(京都大学の対応)。

17. JpGU 2020年学会選出プログラム委員報告(門馬委員長)

門馬2020年JpGUプログラム委員から以下のような報告がなされた。

JpGU2020はCOVID-19の影響で、幕張メッセにて予定されていた現地開催を行わず、7月12日~16日にオンライン開催として実施されることとなった。共催セッションである『岩石・鉱物・資源』には口頭6件、ポスター18件の投稿があり、全てiPoster形式での発表とする。さらに7/14日午前にディスカッション フォーラム セッション (DFS)を開催する予定である。

18. 各委員会委員選出報告(河上庶務幹事・理事)

河上庶務幹事により、2019年度各委員会、各賞選考委員の投票結果について以下の通り報告がなされた。

(選挙実施経緯) 理事による下記委員の選挙を2019年10月以降実施することについて2019年度第1回定例理事会(2019年9月21日)にて承認を受け、2019年11月27日(土)締切で実施した。なお、理事21名による投票があった。

1) 会長・副会長候補者推薦委員会委員(5名選出)

新規任期1年: 井上 徹, 大和田正明, 黒澤正紀, 佐藤 努, 永井隆哉

2) 日本鉱物科学会賞選考委員会委員

(構成委員11名のうち2名以上は理事)

新規任期1年: 井上 徹, 大藤弘明, 鍵 裕之, 川本竜彦, 梶谷 浩, 佐藤 努, 土屋範芳, 中村美千彦,

永井隆哉(委員長), 宮脇律郎, 役職: 榎並会長

3) 渡邊萬次郎賞選考委員会委員

(全構成委員8名のうち2名は理事)

(新)任期2年委員: 鍵 裕之, 黒澤正紀, 永井隆哉, 宮脇律郎

継続委員: 小暮敏博(委員長), 土山 明, 長瀬敏郎, 吉朝 朗

4) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員

(全構成委員10名のうち2名は理事)

(新)任期2年委員: 磯部博志, 大藤弘明, 黒澤正紀, 富岡尚敬, 永井隆哉

継続委員: 安東淳一, 井上 徹(委員長), 永島真理子, 森下知晃, 吉朝 朗

5) 研究奨励賞選考委員会委員候補者

(全構成委員10名のうち2名は理事)

(新)任期2年委員: 川本竜彦, 高澤栄一, 辻森 樹, 長瀬敏郎, 伴 雅雄

継続委員: 阿部なつ江, 安東淳一, 黒澤正紀, 富岡尚敬, 永島真理子(委員長)

6) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会委員

(全構成委員10名のうち2名は理事)

(新)任期2年委員: 佐藤 努, 富岡尚敬, 長瀬敏郎, 宮脇律郎, 門馬綱一

継続委員: 大藤弘明(委員長), 鍵 裕之, 黒澤正紀, 杉山和正, 永井隆哉

19. 会長・副会長候補者推薦委員会報告(黒澤委員長・理事)

黒澤会長・副会長候補者推薦委員会委員長により推薦結果について以下のように報告がなされた。

指定期日までに、会員から会長候補者の推薦がなかったため、当委員会全員(大和田委員, 永井委員, 佐藤委員, 井上委員, 黒澤)で協議・検討をした結果、本人の承諾を得て宮脇会員を会長候補者として推薦することになった。

また、副会長候補者も同様に会員からの推薦がなかったので、大和田委員を除く委員(永井委員, 佐藤委員, 井上委員, 黒澤)で協議・検討をした結果、本人の承諾を得て大和田会員を副会長候補者として推薦することとなり、以下の通り、2020年5月19日に選挙管理委員会に届けた。

(1) 会長候補者氏名・所属・専門分野

宮脇律郎 国立科学博物館 鉱物学, 結晶学, 結晶化学

(2) 副会長候補者氏名・所属・専門分野

大和田正明 山口大学大学院創成科学研究科 岩石学(火成岩)

20. 選挙管理委員会報告(大内委員)

大内選挙管理委員により、役員選挙について以下のように報告, 説明がなされた。

期日まで、会長候補者として1名, 副会長候補者として1名, 理事候補者として36名, 監事候補者として1名の届出があった。

役員選出内規に沿って実施し、投票7月中の3ヶ月前の3月12日に選挙公示をしました。今後予定通り、投票期間初日の30日前まで学会HPに公示し、7月に選挙を実施する。

21. 新鉱物・命名・分類委員会報告(門馬委員長)

門馬新鉱物・命名・分類委員会委員長により以下の報告がなされた。

昨年9月以降89件の新鉱物が承認され、国内からはMichitoshiite-(Cu)が新鉱物として承認された。

22. 教育普及委員会報告(林委員長代理:長瀬理事)

林委員長代理, 長瀬教育普及委員会委員(理事)により教育普及委員会の活動について以下のような報告がなされた。

1. 2019年度の教育普及委員会報告

1) 教育普及委員会が中心になって行うアウトリーチ：・SSH(スーパーサイエンスハイスクール)等の高大連携を活用したアウトリーチ活動(当学会会員の講師派遣)を行なった。・年会における普及活動は、委員が年会に参加できない状況にあり進捗は芳しくない。・コロナ禍で今後はアウトリーチ活動が行えるか未定。2) 教育普及委員会現在の委員会体制：・委員5名の下にアウトリーチに関するワーキンググループを設置する計画は、現在も引き続き検討中。3) 『一家に一枚の鉱物』ポスター：2020/02/12に榎並会長から以下の2022年鉱物学年に向けての「一家に一枚 鉱物」の第3版改定作成、及びそれも利用した様々な普及活動を本委員会に担当するよう依頼があった。依頼理由：IMAはUNESCOの国際基礎科学年の一環事業として、2022年を鉱物学年と定め様々な活動を予定している。これにあわせて、当学会でも様々なアクションを検討したい。文科省等との交渉や実務に関しては事情をよく承知の1版・2版を担当した委員・会員の方々にも参加していただく予定。

2. 2020年度の計画

コロナ禍の今後の成り行きは不透明であり、計画については流動的に考えたい。1) 教育普及委員会現在の委員会体制：・引き続き、アウトリーチに関するワーキンググループを設置する計画を進行させる。2) 一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動の方策をコロナ禍の状況を見ながら考え実行する。3) 小中高の理科教科書のチェックについて：学校教育で使用される教科書は、多くの児童生徒の目に触れるため、影響力が大きい。そのため、現行の小中高の理科教科書の鉱物科学的正確性は、鉱物科学の普及を考える上で重要である。そこで、現行の小中高の理科教科書中の鉱物科学に関する記述に関して、検討を行い、誤りがあった場合は理事会に諮った上で、教科書会社に提言を行う。

23. 博物館委員会報告(坂野委員長)

坂野博物館委員会委員長により以下の通り報告がなされた。国際鉱物学連合のCommission on Museums(CM)から各国の鉱物コレクションに関する情報提供依頼が2019年10月にあり、本委員会委員からの情報を基に日本の博物館が保有する鉱物コレクションの概要を取り纏め、2019年12月にCM委員長へ提出した。

24. その他

(1) 日本地質学会提案「大規模研究計画に関するマスタープラン2020」報告 (河上庶務幹事・理事)

河上庶務幹事から表記について報告がなされた。2020年1月30日開催の日本学術会議第286回幹事会において日本地質学会が提案し日本鉱物学会が賛同して申請提言した「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン2020)」：計画番号 94、学術領域番号 24-1：「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」が承認され「学術大型研究計画」「内定」が正式に決定されたことが日本地質学会から報告された。なお、日本学術会議マスタープラン2020サイトに公開中。(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t286-3-2-93.pdf>)

(2) International Symposium on Water-Rock Interaction (WRI) WRI-17 August 5-10, 2021 東北大学開催その後の報告 (土屋委員長・理事)

土屋理事から表記につて以下の通り報告がなされた。WRI-17(Water-Rock Interaction)ならびにAIG-14(Applied Isotope Gechemistry)の合同国際会議は、当初2021年8月2日から7日に仙台国際センターで開催予定であった。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大で、2020年に開催予定であった東京オリンピックが、2021年の7月から8月開催に延期されたため、オリンピックと重なる時期での国際会議同時開催は現実的には不可能であると判断し、開催時期の再検討を親委員会であるWRI国際委員会と

協議してきた。その結果、開催を1年延期し、IMAやゴールドシユミット(ホノルル)開催などの関連も考え、2022年7/30-8/5もしくは8/7までの開催とすることで、大筋の合意を得ている。まだ、AIG-14との調整が残されているが、AIGは、WRIの意向を尊重していることから了解は得られるものと考えている。仙台国際センターの2022年の予約状況が確定されていないため開催日程については多少動く可能性がある。また、鉱物科学会からの貸付金についての返済期間が1年遅れることとなるため契約の見直しなどを進める必要がある。

(3) その他

大藤広報委員長から、外部一般からの鉱物学または岩石学の専門的、一般的な事柄への当学会への問い合わせに関して、今後は広報委員会が窓口になり対応できるよう検討していくとことが報告された。

11. 審議事項

第1号議案 新入会員承認の件(阿部会員幹事・理事)

阿部会員幹事により一般会員1名、学生会員1名(記載省略)の入会申し込みが紹介され、異議なく入会が承認された。

第2号議案 各賞選考委員会報告と審議(榎並会長)

(1) 日本鉱物学会賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告 永井委員長・理事)

日本鉱物学会賞選考委員会永井委員長により、選考結果について以下の通り報告がなされた。

期日まで2名の会員が候補者として推薦され、まず初めに選考委員に候補者との利害関係を自己申告してもらい利害関係のない選考委員により候補者の業績等を慎重に審議し、その結果、2019年度日本鉱物学会賞第22回受賞候補者として奥地拓生会員、第23回受賞候補者として小松一生会員を授賞に値すると認められたことが報告された。それぞれの選考理由と業績が紹介された後、審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

2019年度日本鉱物学会賞第22回受賞者

氏名：奥地 拓生 会員(岡山大学 惑星物質研究所)
業績題目：水素を含む地球惑星内部物質の構造と拡散の研究

2019年度日本鉱物学会賞第23回受賞者

氏名：小松 一生 会員(東京大学大学院理学系研究科 附属地殻化学実験施設)
業績題目：高圧下中性子回折法の手法開発ならびに水素を含む鉱物の高圧相転移の解析

(2) 渡邊萬次郎賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告 小暮委員長)

渡邊萬次郎賞選考委員会小暮委員長により、委員会で慎重に審議し選考委員全員の一致した結論として2019年度渡邊萬次郎賞第36回受賞候補者として島崎英彦永年会員を授賞に値すると認め推薦することが報告された。推薦理由が紹介された後、審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

(3) 日本鉱物学会論文賞選考委員会受賞論文候補報告と審議 (報告 井上委員長・理事)

日本鉱物学会論文賞選考委員会井上委員長により、論文賞規定に沿って、以下の2編を2019年度日本鉱物学会論文賞受賞論文候補として選考したことが報告された。推薦理由が紹介された後、審議の結果、受賞論文として異議なく承認された。

2019年度日本鉱物科学会第22回論文賞受賞論文
受賞論文: Pressure-induced crystallization of biogenic hydrous amorphous silica. JMPS, 112, 324-335, 2017.
Authors: Atsushi KYONO, Miho YOKOOJI, Takashi CHIBA, Tomoya TAMURA, Akihiro TUJI
[受賞者となる会員著者] 興野 純会員, 田村知也会員

2019年度日本鉱物科学会第23回論文賞受賞論文
受賞論文: 東北日本弧, 男鹿半島の寒風山に産する角閃石含有同源集積岩と輝石グラニュライトの岩石学的, 同位体的特徴: 高圧下における角閃石の結晶作用と下部地殻物質の交代作用, 岩石鉱物科学 46-3, 81-107, 2017.
著者: 山元正継, 西澤達治, 三森俊亮, 業田顕行, 緒方武幸
[受賞者となる会員著者] 山元正継会員

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞受賞候補者報告と審議
(報告 永島真理子委員長・理事)

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会永島委員長により, 期日まで2名の推薦があり, 選考委員会での規定に則った審議の結果, 2019年度日本鉱物科学会研究奨励賞第27回受賞候補者として吉田健太会員, 第28回受賞候補者として杉浦悠紀会員を推薦することが報告された。選考理由が紹介された後, 審議の結果, 受賞者として異議なく承認された。

2019年度日本鉱物科学会研究奨励賞第27回受賞者
氏名: 吉田 健太 会員(海洋研究開発機構海域地震火山部門)
受賞研究: 沈み込み帯で生じる脱水流体やそれに関連する物質収支の研究

2019年度日本鉱物科学会研究奨励賞第28回受賞者
氏名: 杉浦 悠紀 会員(産業技術総合研究所健康医工学研究部門)
受賞研究: リン酸による炭酸カルシウム多形制御メカニズム解明と生体材料への応用

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会受賞候補者報告と審議
(報告 大藤委員長・理事)

応用鉱物科学賞選考委員会大藤委員長により, 選考委員会での審議の結果, 2019年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第12回受賞候補者として入船徹男会員を推薦することが報告された。選考理由と業績が紹介された後, 審議の結果受賞者として異議なく承認された。

2019年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第12回受賞者
氏名: 入船 徹男 会員(愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)
業績題目: ナノ多結晶ダイヤモンドの合成とその多様な科学研究・新材料創製への応用

(6) 櫻井賞選考委員会受賞候補者報告と審議
(報告 松原委員長 代理宮脇理事)

櫻井賞選考委員会松原委員長代理宮脇理事により, 選考委員会審議の結果, 2019年度櫻井賞第45回受賞候補者として栗林貴弘会員を推薦することが報告され, 推薦理由が紹介された後, 審議の結果, 受賞者として異議なく承認された。

2019年度櫻井賞(第45回)
受賞候補者 栗林 貴弘 会員(東北大学理学部)
対象鉱物: 日立鉱

宮脇委員より, 次年度から中井泉委員から長瀬敏郎会員への委員交代予告があった。

(7) 2019年度JMPS学生論文賞受賞論文候補報告と審議
(報告 永井選考委員長・理事)

JMPS学生論文賞選考委員会永井委員長により選考について以下の通り報告がなされた。

2019年度JMPS学生論文賞対象論文は11編となり, JMPS学生論文賞に関するガイドラインに沿って選考作業が実施され, 受賞論文候補として以下の2編が推薦されたことが報告された。選考理由が紹介された後, 審議の結果, 受賞論文として異議なく承認された。

第9回受賞論文: Metamorphic pressure-temperature conditions of the Lützow-Holm Complex of East Antarctica deduced from Zr-in-rutile geothermometer and Al₂SiO₅ minerals enclosed in garnet. 114-6, 267-279, 2019.

受賞者: Kota SUZUKI (鈴木康太 投稿時: 京大・修2)

第10回受賞論文: Formation of triple-layer coronas between corundum and hornblende from the Lützow-Holm Complex at Akarui Point, East Antarctica. 113- 2, 68-81, 2018.

受賞者: Yuki MORI (森 祐紀 投稿時: 九大・博1)

第3号議案 2020年度収支予算案の審議
(榎並会長, 説明栗林会計幹事)

栗林会計幹事により, 2020年度収支予算案が提示され, 詳細な説明がなされた。7月31日決算前の予算であるため, 未定のところが多くなっていること, 更に今年は2020年年会開催の有無や開催方法により収支合計に大きな変更が出ることもあるが, 例年通り現時点での予算案についてこの第2回理事会で審議, 承認をいただき, その後7月の決算後に補正予算を立て, 第3回定例理事会に提出し最終承認を受ける段取りであることが説明された。

審議の後, 2020年度収支予算案は異議なく承認された。なお, 予算は理事会承認事項であり, 総会承認事項ではないが, 総会では最終予算案を報告する。

なお, 小暮理事から, 2019年9月の年会(九大)での研究発表優秀受賞者が, コロナ禍の影響で, 海外の学会等への成果発表参加や海外での調査・研究ができない状況にあるので, 海外渡航支援金を受ける期間を, 受賞1年以内から更に延長してほしい要望があり, 今後検討していくこととなった。

第4号議案 2020年年会の開催について
(磯部行事幹事, 土屋2019LOC委員長・理事)

磯部行事幹事から, コロナ感染拡大の影響を受け, 当学会2020年年会の開催について対応を検討してきた経緯と結果について以下の通り説明がなされた。

4月21日にコロナ禍の影響で各学会が年会開催について検討し始めているという土屋LOC委員長からの情報を受けて, 当学会2020年年会開催について理事会に何らかの具体的な提案ができるよう, 榎並会長, 宮脇副会長, 平島監事, 河上庶務, 磯部行事, 片山行事, 土屋LOC委員長, 岡本LOCを中心に急遽検討WGを設置して, メールで意見交換を始めた。その後連休明けに, JpGU 2020大会オンライン7月開催決定の通知を受けて, 当学会年会開催について, 更にセッションコンピーナーと行事委員に参加を求め, 選択方式のアンケートを依頼し広く意見を求めた。28名から回答があり, 以下に大きく4案としてまとめたことを報告する。なお, この状況下でまだまだ未確定要素が多いので, 審議では, 本日結論を出すことはしないで, この理事会で今後の方針を決めていただくことを考えている。

<1>日本鉱物科学会2020年年会開催についての検討事項まとめ
1. 予定通りの現地開催案

・利点: 対面での討論を含む通常通りの発表機会が確保できる。
・要対応, 確認事項: 会場校(東北大学)として, 9月の会合開催は認められるか。会場での密閉, 密集, 密接を避けることは可能

か。口頭発表会場、ポスター会場の席数、面積に余裕を持たせることは可能か。仙台への移動、宿泊等の状況についても、通常と変わらない状況か。一般普及行事は開催可能か。

・問題点: 研究活動を進められなかった機関もある中、JpGUとの間隔が例年の半分程度となる。多くの大学で授業日程が変更されている。発表数、参加者数を確保できるか。年会会計にも影響する。

2. 予定通りの日程でのオンライン開催案

・利点: 感染状況の変化に(あまり)依存せずに発表機会が確保できる。

・要対応, 確認事項: どのような発表形式とするか。発表形式によっては追加費用が発生する。参加費をどのように設定するか。
・問題点: オンライン開催となったJpGUとの間隔が短く、発表数、参加者数を確保できるか。

3. 日程を延期し、年度内に現地開催案

・利点: 対面での討論を含む発表機会が確保できる。JpGUとの間隔がある程度確保されるため、研究活動の進展による発表の増加が期待される。

・要対応, 確認事項: 通常通りの行事が行えるほど感染状況の改善が期待できる日程をどう設定するか。

・問題点: 現時点では不確定要素が多い。大学の授業日程と重複するため、LOCへの負担が大きい。発表数、参加者数を確保できるか。(年度内延期のオンライン開催とした場合でも、通常規模の開催を目指すすれば上記問題点は同様となる)

4. 1年延期し、開催地を繰り下げる案

・利点: 現状では、最も安全な選択肢かもしれない。

・要対応, 確認事項: 本年度、来年度予定のLOCからの承認が必要。年度内の日程(例えば11月初旬)で、小規模なオンライン開催を設定して発表機会を確保する必要はないか。

・問題点: 本年度の発表機会が失われる会員、学生が生ずる。学会活動に悪影響は生じないか。

<2>上記結果によって2022年年会開催地について

東北大学が1年延期した場合、2022年に広島大学開催となることに広島大学では問題ないとの回答があった。

<3>上記まとめの説明を受けて、理事から以下のような意見があった。

- ・地質学会が1年延期することを本日決定した情報があった。
- ・JpGU並みのオンライン開催のための通信セキュリティを上げると相当な費用が嵩む。
- ・東北大学LOCから、現地開催の場合三蜜を避けるための更なる会場確保が必要なので、コロナ禍の影響を受けて他専攻科からの教室利用の協力は得られない状況になり、結果として会場確保が難しいことから、現地開催は難しいと思う。
- ・1年延期すると火山学会、地震学会も仙台開催なので日程的に難しくなる。
- ・JpGUのオンライン開催方法の様々な新方式の紹介があった。著作権の問題を明確にすること。
- ・Confit利用でも十分対応可能であるのでオンライン開催を希望する。但し追加費用がかかる。
- ・Confit利用には現在契約している基本仕様と費用が加算されるオプション仕様がある。
- ・ZOOMを利用した口頭発表は、現地で参加しているのと同じような状況なので、問題ないと思う。
- ・ZOOM利用の際にセキュリティの問題がある。
- ・オンライン開催による会員のメリットを考える。
- ・今回の場合は、講演発表完了をどこにするか。ポスターWEB掲示、講演要旨公開、ZOOM発表などのうち。
(現在は、天候などによる緊急事態発生の場合は、講演要旨の公開をもって講演発表したこととしている。)
- ・地球化学会の情報によれば、秋から第2波の感染拡大の予想もあるので、LOC状況を尊重すると現地開催は難しい状況との意見もある。
- ・東北大学LOCの意見を尊重すべき。
- ・LOCとしては、リスクが高い。東北大学開催予定の資源素材学

会は現地開催を中止してオンラインになった。

- ・オンライン開催となった場合、東北大学LOCも協力する。
以上の質疑応答の結果、
・1年延期した場合、広島大学には開催時期に問題ない。

<4>以上の質疑応答を受け、榎並会長から、東北大学LOCを尊重して今年中の現地開催は中止とすること、その他開催方法や詳細については東北大学LOCと行事委員会を中心に、今日のような情報を基に、講演申込開始前(6月23日)まで更に検討していくことの提案があり、理事全員の賛成を受け会長提案は承認された。

第5号議案 会員区分等検討WG委員会委員からの年会展示方法の提案(佐藤特務幹事)

第4号議案の審議の結果、今年中の東北大学現地開催中止決定を受けて、第5号提案は取り下げることとなり、取り下げが承認された。

第6号議案 2021年年会(広島大学)運営委員名簿提出(井上2021LOC委員長・理事)

井上2021年年会LOC委員長により、現在までの準備状況について現在の状況が2021年も続くかどうか判断できない状況であるが以下の通りで準備を進めていくこと、更に今後状況に応じて柔軟に対応していくことの説明がなされ、異議なく承認された。

開催日時: 2021年9月頃(未定)

開催場所: 広島大学 東広島キャンパス 理学部棟

運営委員名簿(予定):

井上徹(委員長)、片山郁夫(副委員長)、安東淳一、柴田知之、早坂康隆、宮原正明、川添貴章、DAS Kaushik、大川真紀雄、柿澤輝、芳川雅子、横山正、前田誠、河田尚美 以上14名

- 1) 2021年開催の場合、理学部講義室は夏休みまでに手配(無料)
- 2) 助成金の申請予定(東広島市、10万円)

第7号議案 研究発表優秀賞選考委員会交代委員とガイドライン改正の審議(森下理事, 説明 新名委員長)

新名研究発表優秀賞選考委員会委員長により、以下の通り説明があり、新規委員5名とガイドラインの文言修正について、提案は異議なく承認された。

(1) 交代委員5名の指名

以下の5名は2019年9月24日23時に任期満了となった。

越後拓也、境 毅、辻森 樹、長瀬敏郎、興野 純
上記5名の交代委員(1期目新規委員)として下記5名を指名した。

<新規委員: 任期2020年年会審査から2021年年会審査終了まで>
吉村俊平(副委員長)、篠崎彩子、鹿山雅裕、
富岡尚敬、中村佳博

なお、任期2020年年会審査終了までの継続委員は以下の通り。

新名良介(委員長)、亀井淳志、森下知晃、
石橋秀巳、瀬戸雄介

(2) ガイドラインの修正箇所

現在の「E. 研究発表優秀賞の選考ならびに海外渡航支援制度に関するガイドライン」第2項に記載されている「正会員」について、現在の一般社団法人の「会員区分」では「正会員」には学生会員も含まれるため、学生会員が審査員としては相応しくないので「一般会員」に訂正する。また、第6項「学生正会員」は現行では使用していないので、「学生会員」に訂正する。

第8号議案 応用鉱物科学賞選考のためのガイドライン作成審議(大藤理事, 代理鍵理事)

大藤理事、代理鍵理事から応用鉱物科学賞の選考について、選考を進めるためのガイドラインを「各種ガイドラインなど」に追

記することが今年度の選考委員会より提案があったことが説明され、ガイドライン案が紹介され、提案は異議なく承認された。

[提案理由]

1年任期で委員長が交代した場合でも参照できる指針を設け、スムーズに選考を進めることと、一般社団法人として必要があれば外部にきちんと同賞選考規定を示せるようにすることが本提案の理由である。具体的には、下記を「応用鉱物科学賞の選考ガイドライン」として明記いただきたい。

< 応用鉱物科学賞選考のためのガイドライン案 >

- 1) 選考委員会は、推薦のあった候補者の業績に基づき審査を行い、議論または投票により原則1名を選び、理事会へ推薦する。
- 2) 候補者が1名の場合は、当該候補者の推薦の可否を議論または投票により決定する。
- 3) 候補者が複数の場合は、選考方法について議論を行い、適切な方法により推薦候補を決定する。
- 4) 選考委員が候補者もしくは推薦者となった場合は、選考には加わらないものとする。

第9号議案「岩石・鉱物の日」制定の件（宮脇副会長）

宮脇副会長により以下の通り説明がなされ、提案は異議なく承認された。

ユネスコが2022 Year of Mineralogyと制定したこと、AGIとMSAがMinerals Day on Monday, October 12, during Earth Science Week 2020を提案していることと連携していくことについて。

第10号議案 第3回定例理事会、総会開催日、方法の件
(河上庶務幹事・理事)

河上庶務幹事より、以下の説明に記載した日程案が紹介され、各理事のスケジュール申告を受けて質疑応答の後、榎並会長により取り纏められた以下の3案について審議がなされ、異議なく承認された。

- (1) 2019年度監査日程案：8月26日(水)午前中ZOOM実施案
(今後の状況で監事と会計幹事間で日程調整可能)
- (2) 第3回定例理事会日程：8月29日(土)13:30からZOOM開催
- (3) 2019年度総会開催案：年会開催方法にもよるが、9月17日(木)以降の早い時期に開催できるよう、年会開催方法の検討と運動して日程案を検討すること

説明：(1)業務の準備：監事の監査を受ける準備として、会計、業務執行報告書作成は、7月帳簿作成完了、事務局の監査用総会業務報告書作成は監査前まで、予定通り完了する。また、決算書作成を依頼している顧問先はコロナ感染の影響を受けないで、例年通り決算書作成が可能。(2) コロナ禍での監査実施方法：平島監事による監査実施方法について、仙台まで移動しないで、監査資料を平島監事に送りWEB会議で監査を実施することが可能との顧問先から回答あり。(理由：監事監査については、最終的に監事が自己の責任のもと納得のうえ、監査報告書に押印することができれば手段は問われない。)(3) 監査実施日案：8月26、27、28日のいずれかの日。(4) 第3回理事会開催日案：午前中監査をし、その日の午後から第3回定例理事会をZOOMで開催する案。(5) 総会開催日程案：今年度は、総会で理事の選任、総会後の第1回理事会では代表理事の選定をしなければならないので、年会開催の延期とは別に、第3回理事会そして総会開催をWEB会議も含めて遅くとも9月中に実施できるよう検討をお願いする。

その他の議案

宮脇将来企画委員長により、以下の提案があり、異議なく承認された。

< 将来企画委員会からの提案 >

諮問されている継続審議を継続するが、他の委員会と連携を深めるためと短期的には2年以内に答申すべき内容もあり、将来構想や何を検討するかについても含め関係委員会と共同で議論を進めていくことを将来企画委員会に認めてほしい。

【10】閉会

以上の議事を終え、19時30分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

2021年(令和3年)4月16日

会 長 榎並正樹 印

副会長 宮脇律郎 印

監 事 平島崇男 印

(配布時押印省略)